礼拝　　２０２１年８月１５日（日）
題　　『再生の物語』
テキスト：マルコ５：１～２０節

親愛なる皆さん、おはようございます。
今日８月１５日は、７６年前日本が行った戦争が、敗戦によって終了した終戦記念日です。戦争で貴い命を失ったすべての人々のことを思い、
　日本は自ら起こした戦争により２００万以上の人の命が奪われました。アジアの人隊は日本の起こした戦争に寄り２０００万人以上の人たちの尊い命が奪われました。沖縄では２４万人もの人たちが戦争の犠牲になられたことを覚えておきたいと思います。二度と戦争が起こらない、起こさないことを願い、共に心を合わせて祈りたいと思います。
　さて、今日の聖書個所は、主イエスが、悪霊に取りつかれたゲラサの人をいやされた場面です。ちなみにわたくしごとですが、今日の聖書個所は、同志社の神学部を卒業して、伝道師として招かれた京都の向日町教会で、最初に説教をさせて頂い時の個所で、どうしてこの個所を選んだのか、理由はよく覚えていませんが、説教をつくるのにとても苦労した想い出があります。
1:一行は、湖の向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。
イエスと弟子たちは、嵐の中ガリラヤ湖をわたり向こう岸の
ゲラサ人の地と呼ばれた場所に向かったのです。
聖書の最後の地図にある地図ではデカポリス地方となっていますが、約２０００年前のユダヤ人からみれば汚れた場所で異邦人の地とみなされ軽蔑されていたようです。　ここからイエスによる悪霊に取りつかれていた人の癒しの物語、出来事が始まります。イエスと弟子たちが岸に着き小舟を降りるやいなや、
　2:イエスが舟から上がられるとすぐに、汚れた霊に取りつかれた人が
　墓場からやって来た。「汚れた霊に取りつかれた人」とは今日的表現で言えば、重い精神的な病に陥っていた人で、人々の間での生活が難しかった人と言えるかもしれません。

　イエスのもとにやって来た人の姿が説明されています。
　3:この人は墓場を住まいとしており、もはやだれも、鎖を用いてさえ
　つなぎとめておくことはできなかった。4:これまでにも度々足枷や鎖で縛られたが、鎖は引きちぎり足枷は砕いてしまい、だれも彼を縛っておくことはできなかったのである。5:彼は昼も夜も墓場や山で叫んだり、石で自分を打ちたたいたりしていた。この人は墓場を住まいとしていたとあり、

　　驚きます。
墓場は死体が置かれ、死の世界と思われていました。この人は、家族とも人とも関係を絶ち、一人でいたのです。孤独と不安そして死を連想します。
そして「もはやだれも､鎖を用いてさえつなぎとめておくことはできなかった。
「4:これまでにも度々足枷や鎖で縛られたが、鎖は引きちぎり足枷は砕いてしまい、だれも彼を縛っておくことはできなかったのである。」と。

　この人の置かれた現実は、想像するのが難しいようにも思えます。しかし、昔知恵に遅れのある幼児さんの療育施設で働いていたことがありますが、日本では障害のある子どもを家の奥に隠していたこともあったのだと聞いたことがあります。そのような社会の差別的な現実があったのです。今はどうでしょうか？この人は耐えきれず、屈強な大人でもあり「鎖は引きちぎり足枷は砕いてしまい、だれも彼を縛っておくことはできなかったのである。」
また、「5:彼は昼も夜も墓場や山で叫んだり、石で自分を打ちたたいたりしていた。自傷行為が繰り返されていたのです。また､「彼は昼も夜も墓場や山で叫んだり」ということばで、この人の救いを求めての言葉にならない切なるうめきや叫びも思うのです。

　この人が、6:イエスを遠くから見ると、走り寄ってひれ伏したのです。
そして、7:大声で叫んだ。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。後生だから、苦しめないでほしい。」と。この人は、イエスの本質、神の子であるということを見抜いていたのです。「かまわないでくれ。後生だから、苦しめないでほしい。」と。この人は苦しんでいるのです。もうこれ以上苦しみたくないのです。人との関わりを拒否するのです。ややもすれば、人との関わりは楽しい時もあれば苦しみをももたらします。一人のほうが寂しくても楽な場合もあります。
　主イエスは、今出会ったこの一人の人の置かれた状況の厳しさと苦しみの大きさと人間関係の複雑さを見抜きます。そして、この人に解放宣言を行われたのです。
「汚れた霊、この人から出て行け」と。力強く語られたのです。イエスは「この人」を、その人格を見ておられます。「人間」と認め、彼を支配し苦しめている強い力を持つものに対して､神の子として､「汚れた霊､この人から出て行け」と宣言されたのです。
　この愛に満ちた圧倒的なイエスの言葉と行いによって、汚れた霊はこの人から出て行ったのです。この人は長年の苦悩を癒され、新たなる再生の人生の道

を歩み出すことができたのです。新たに生まれ変わったと言えるでしょう。
これは神の恵みによる救いの出来事であり、再生の物語なのです。誰でも、わたしたちも主イエスとの出会いによって再生の道、救いの人生の道を歩めるのです。神の光の中を歩み出せるのです。たとえ貧しくても、病であっても、イエスの愛と神の憐みに感謝することの出来る人生を送れるのです。それが神の恵みによって信仰者に与えられた人生なのです。「この人」を今まで縛っていたのはレギオンだと言われます。

9:そこで、イエスが、「名は何というのか」とお尋ねになると、「名はレギオン。大勢だから」と言った。

レギオンとは、当時支配してしたローマ帝国の軍隊組織の用語で、５，６千人からなるものでした。それほど多くの強い力がこの人をガチガチに支配していたのです。イエスはこのレギオンと戦い勝利されたのです。主イエスに敗北したレギオンはイエスに懇願します。

10:そして、自分たちをこの地方から追い出さないようにと、イエスにしきりに願った。

11:ところで、その辺りの山で豚の大群がえさをあさっていた。豚の大群が飼われていたのです。

12:汚れた霊どもはイエスに、「豚の中に送り込み、乗り移らせてくれ」と願った。

13:イエスがお許しになったので、汚れた霊どもは出て、豚の中に入った。すると、二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖になだれ込み、湖の中で次々とおぼれ死んだ。

今も、豚がなだれ込んだと言われる崖が残っています。
ちなみに、豚が湖になだれ込むと、

14:豚飼いたちは逃げ出し、町や村にこのことを知らせた。人々は何が起こったのかと見に来た。

15:彼らはイエスのところに来ると、レギオンに取りつかれていた人が服を着、正気になって座っているのを見て、恐ろしくなった。

レギオンに支配されていた人は心を癒され解放され、服を着、正気になって座っていたのです。これは、この人の新しい再生の道です。
村の人々は、共に喜ぶのではなく、恐ろしくなったのです。今後、自分たちに悪い事が起こらないか不安になって恐れたのかもしれません。彼らの心は、この人の救いではなく、所有物である豚の損失や彼らが心配していた悪霊のたたりであったのでしょうか。

また、成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれた人の身に起こっ

たことと豚のことを人々に語りました。
そこで、人々はイエスにその地方から出て行ってもらいたいと言いだしたのです。主イエスは長年苦しんで来た人を救ったのに、その地方の人々からは出て行ってほしい、とつまり理解されず受け入れられなかったのです。主イエスは、この時、すでに十字架の道を歩んでおられたのです。
　この一人の癒された人を通して主イエスの名は新しい地に広まって行ったのです。　歴史を振り返っても、人も、社会も国家も、時にサタン的な悪魔的な力や考え方に支配される時があると思います。今日の聖書の解放の出来事、また人を襲い縛り、破壊をもたらすこの世の悪魔的な力からの解放を願い、平和を願って、終戦記念日・敗戦記念日の今日の時を胸に刻み、祈りを合わせたいと願います。

◆悪霊に取りつかれたゲラサの人をいやす
1:一行は、湖の向こう岸にあるゲラサ人の地方に着いた。
2:イエスが舟から上がられるとすぐに、汚れた霊に取りつかれた人が墓場からやって来た。
3:この人は墓場を住まいとしており、もはやだれも、鎖を用いてさえつなぎとめておくことはできなかった。
4:これまでにも度々足枷や鎖で縛られたが、鎖は引きちぎり足枷は砕いてしまい、だれも彼を縛っておくことはできなかったのである。
5:彼は昼も夜も墓場や山で叫んだり、石で自分を打ちたたいたりしていた。
6:イエスを遠くから見ると、走り寄ってひれ伏し、
7:大声で叫んだ。「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。後生だから、苦しめないでほしい。」
8:イエスが、「汚れた霊、この人から出て行け」と言われたからである。
9:そこで、イエスが、「名は何というのか」とお尋ねになると、「名はレギオン。大勢だから」と言った。
10:そして、自分たちをこの地方から追い出さないようにと、イエスにしきりに願った。
11:ところで、その辺りの山で豚の大群がえさをあさっていた。
12:汚れた霊どもはイエスに、「豚の中に送り込み、乗り移らせてくれ」と願った。
13:イエスがお許しになったので、汚れた霊どもは出て、豚の中に入っ

た。すると、二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖になだれ込み、湖の中で次々とおぼれ死んだ。
14:豚飼いたちは逃げ出し、町や村にこのことを知らせた。人々は何が起こったのかと見に来た。
15:彼らはイエスのところに来ると、レギオンに取りつかれていた人が服を着、正気になって座っているのを見て、恐ろしくなった。
16:成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれた人の身に起こったことと豚のことを人々に語った。
17:そこで、人々はイエスにその地方から出て行ってもらいたいと言いだした。
18:イエスが舟に乗られると、悪霊に取りつかれていた人が、一緒に行きたいと願った。
19:イエスはそれを許さないで、こう言われた。「自分の家に帰りなさい。そして身内の人に、主があなたを憐れみ、あなたにしてくださったことをことごとく知らせなさい。」
20:その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとくデカポリス地方に言い広め始めた。人々は皆驚いた。